

障がいを知ることで

岐阜市立長森中学校 3年
北川 歩実 (きたがわ あゆみ)

「暴れる」「叫ぶ」「人を攻撃する」みなさんは、これらの行為を聞いて、どのようなイメージを思い浮かべますか。例えば、「怖い人だ」「おかしい人だ」と思う人もいるでしょう。しかし、そこで止まってははいけません。なぜなら、その人はそれを自分の感情表現とする障がいがある人かもしれないからです。

私の弟は、知的障がいを伴った自閉症という障がいがあります。自閉症は興味、行動の強いこだわり、人とのコミュニケーションの難しさなどを特徴とします。例えば、言葉がうまく話せなかったり、何か気に入らない事があると怒ったりということがあります。しかし、見た目は私達と何も変わらないことがほとんどで、見ただけで障がいがあるとはわかりづらいです。

私の弟も周りからは障がいがあるとわからないので、日常生活で困ったことがよくあります。例えば、外出をした時にいきなり暴れだしたり、叫びだしたりすることがあります。すると、周りの人は障がいがあるとわからないので、「何あの子。」「親は何をしているんだ。」と言うかのように冷たい目を弟、私達家族に向けます。弟が暴れて家族は慌てる。私はこの光景を見るのがすごく嫌でした。「せっかくのお出かけが台無しだ。」と思い、私はそれから弟と外出するのを避けるようになりました。

そんな中、昨年2月下旬、コロナ禍で私も弟も学校が休校となりました。外出も難しくなり、家で弟と過ごす時間が増え、家であっても弟の行動に不思議な気持ちを抱くことは多くありました。しかし、長い時間を一緒に過ごすうちに、弟は何も変わっていないのに弟の気持ちが行動に現れていることに気がつくようになったのです。例えば、朝になって暴れ始めたのは、いつもなら、あるはずの学校がなくなったことによって、自分の予定が急に変わってしまったから。急に笑い出したのは、教育テレビで好きな歌が流れてきたから。障がいがある人全員が、この行動をするわけではありません。しかし、今まで謎だった弟の行動の意味が分かるようになってきたのです。さらに、自分がどうしたら弟が喜ぶのか、怒るのかもわかるようになりました。より弟のことを知ることができて嬉しくなったと同時に、今まで大好きだった弟のことを嫌な目で見たり、避けてきたりしたことを姉として情けなく思い反省しました。

改めて考えてみると、弟の周りには、母、父そして私などたくさん支えてくれる人がいます。家族だけでなく、特別支援学校の先生や友達、かかりつけ医の先生など、至るところに弟の理解者がいます。これはとても幸せなことだと思います。

障がいがあることは、決して不幸なことではないのです。障がいがある人の行動を見て、その行動をする理由がわかるようになるのはとても難しいです。しかし、わからないで終わってほしくはないのです。変な人だと決めつけたくないです。もし理解できないような行動に出会った時、「何か事情があるかもしれない」と想像してください。何かできることはないだろうかと考えてみてください。一人一人が温かい気持ちをもって接することができれば、障がいのある人もない人もありのままの姿で生きられる社会に近づくことができると私は思います。

誰もが大切にされ、幸せに暮らせる社会。そんな社会を目指して、一緒に一歩を踏み出しましょう。